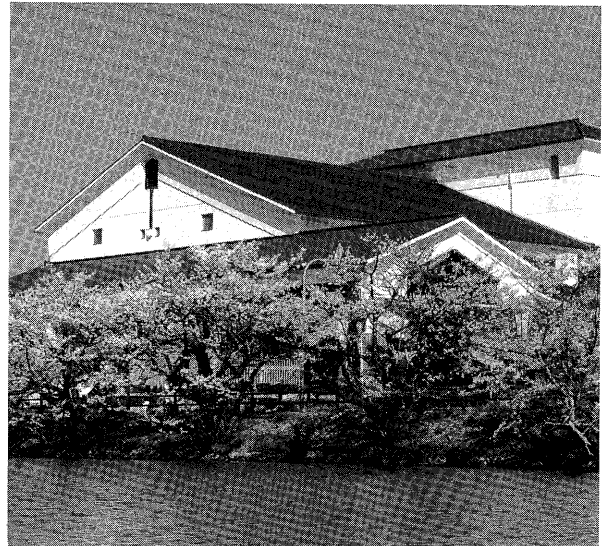


VI. たんば田園交響ホール

裏方業務を担う「ステージ・オペレーター・クラブ」、もぎり、客席案内などオモテ方の業務を行なう「レディースi」、女性に期待される企画と観客動員を安定させる方策を諮問している「レディース21委員会」という複数のボランティア制度を導入。様々な角度から地域住民がホールの運営を支える試みで、地域に根ざした公共ホールの運営をめざしている。

📄 施設・運営の概要

運営母体	篠山町
所在地	兵庫県多紀郡篠山町北新町 41
TEL	0795-52-3600
FAX	0795-52-3646
開館年月	1988年4月
複合形態	単独館
施設特性	音楽ホール
座席数	800
自主事業予算	年間 3,000～5,000 万円
自主事業数	年間 11 本（平成八年度）
立地都市人口	22,590 人
組織体制	総務系:2、企画系:1、技術系:3、その他:1 （全て自治体職員）



😊 ボランティア制度の概要

名 称	・①：ステージ・オペレータークラブ、②：レディースi (アイ)、③：レディース21
導入時期	・1987.10
登録人数	・①：89名、②：36人、③：21人
導入の経緯	・①：舞台技術に対する知識とノウハウを理解してもらうことを目的に、開館の1年前より養成講座を実施（直接的には技術スタッフの業務委託費用の利用者負担の軽減がきっかけ）。
活動内容	・①：舞台・音響・照明／ボランティア会報誌の発行、②：もぎり・案内・パンフレット配布、③：企画・制作
募集方法	・①～③：新聞等で公募。
研修	・①：養成講座15回／年（現在5期生）。
実費支給	・①：午前/午後/夜間各1コマ1,500円、全日4,500円を交通費と食事代として費用弁償。
その他	・地元のアマチュア文化団体の発表会については、公演内容や演出方法をステージ・オペレーターがアドバイスし、徐々に内容が向上している。 ・将来的には、ホールのボランティアが地域コミュニティのコアになってほしい。ボランティア・メンバーがきっかけになって、篠山町では、舞台に立ったことのある人、ホールに来たことのある人の割合は非常に高い。

施設側インタビュー記録

1. 施設全体の運営のしくみ

- たんば田園交響ホールは、広域行政を対象にした兵庫県の県有施設で、県が地元広域行政に運営を委託し、広域行政がさらに篠山（ささやま）町に運営を委託している。
- 建設費（12億）は県が負担し、地元が用地を提供して施設は建設されたが、運営費は100%篠山町が負担。
- 自主事業を含めた年間の総運営費は約1.3億円で、貸ホールや入場料収入を除いた約8,000万円が町の一般財源から支出されている。ちなみに町の一般会計の規模は約90億円で、ほぼ1%に相当。
- 自主事業は年間13～14回程度。
- ホールの運営は、当初は町の教育委員会の管轄だったが、現在は町長部局の課の位置づけ。
- 町の人口は現在22,500人。広域行政の周辺の町を合わせた4町全体では約5万人弱。篠山町の計画人口は2万5千人で、ベッドタウン的な性格の強い町であるが、神戸新聞の調査などでは住みやすい町の上位にランクづけされている。
- 篠山町のイメージづくりにホールは一役買っており、隣接する公共施設や観光ホテルの外観は、ホールのデザインの“なまこ壁”に統一されている。

2. ステージ・オペレータークラブ

(1) ボランティア導入の経緯

- 1987年度に建物を建設、同時にオペレーター養成講座を開設し、その修了生で翌年の88年からステージオペレータークラブというボランティア・スタッフを導入しており、今年で9年目。
- 当初は、舞台・音響・照明等の運営は、関西方面の専門業者に委託することを検討していたが、専門業者と契約すると一人につき1,500万円近い契約金額とさらに一日2万円ぐらいの経費がかかることがわかった。つまりそれでは、1公演当たり、経費だけで30～40万、仕込みも入れると50～60万円の費用がかかってしまうことになる。
- そこで、その経費を節約するために、ボランティアで裏方の業務をやるのができないかと考えた。まず、準備室のスタッフがフォークソングをやっていた経験を活かし、そのメンバーが中心になって裏方をボランティアでやっていけないか検討した。
- 新聞で公募したところ60名の応募があり、87年の11月から養成講座を毎週1回、5ヶ月間実施した。
- 県内のホールの照明担当者を講師に招いたり、舞台関係の設備・機器類の

● 第5期ステージオペレーター養成講座カリキュラム

	月 日	曜	講 習 内 容	講 師
1	1・17	火	開講式（舞台をたのしく芸術する）	
2	24	火	舞台概論	出口源市
3	29	日	劇団「四季」篠山公演 視察研修	
4	31	火	照明概論	菟原 功
5	2・7	火	音響概論	小林純一
6	12	日	おじさまの音楽会 視察研修	
7	14	火	舞台技術論	荻野円蔵
8	21	火	舞台技術実習	舞台部オペレーター
9	28	火	照明技術実習	照明部オペレーター
10	3・7	火	音響技術実習	音響部オペレーター
11	14	火	舞台技術実習	舞台部オペレーター
12	21	火	照明技術実習	照明部オペレーター
13	28	火	音響技術実習	音響部オペレーター
14	4・4	火	専門部に別れての懇話会	各部オペレーター
15	9	日	閉講式	各部オペレーター

納入業者による使用方法の説明会を開催したりした。また、オープニング事業では専門業者の神戸国際ステージが入っていたため、ボランティアがその業務の手伝いをさせてもらったりした。

- ・こうして覚えたノウハウで、地元の人々の公演を手伝うというのが、ボランティアの基本的な役割。
- ・技術をかわれたボランティアが嘱託職員になり、4年目にホールの正職員として現在の技術担当者を務めている人もいます。

(2) ボランティア制度の概要

- ・第1期生は38名。現在5期生までいて登録者数は89名。
- ・養成講座は2期生以降も各期15回開催している。
- ・ボランティアの職業は電気屋、大工、宮司、僧侶、教師、元役者などまちまち。
- ・年齢的には、一番若い人が22,3才で最も高齢者は70才近い。男女比はほぼ半々。
- ・ボランティアの募集は地元ミニコミ誌と一般新聞、町の広報誌で行う。
- ・ボランティアスタッフの中には、混声合唱団や吹奏楽、ジャズダンス、ママさんコーラスなど自分でも文化活動に取り組んでいる人も多い。
- ・業務の内容は、舞台、照明、音響のオペレーションと搬入・搬出で、スタッフ一人当たりの年間平均出役日数は約8日。仕事がなくとも、ホールに顔を出す人もおり、実際ホールに来る日数ということになるともっと多い。中には毎日1回は必ず顔を出すという人もいます。

● たんば田園交響ホール ステージオペレータークラブ 会則（抜粋）

（名称）

第1条 本会は、たんば田園交響ホールステージオペレータークラブ（SOC）と称し、事務局はたんば田園交響ホール（以下「ホール」という）内に置く。

（目的）

第2条 ホールで実施される事業に対して積極的に協力し、ステージオペレーター活動を通じて地域文化の発展に寄与する。又会員相互の交流親睦をはかる。

（事業）

第3条 前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 技術向上のための研修。
- (2) ホールにおける文化的行事への参加協力。
- (3) 会員親睦会の実施。
- (4) その他目的達成に必要な事業。

（会員）

第4条 本会は、原則としてホール主催のステージオペレーター養成講座の参加者で前条の目的に賛同するものをもって会員とする。

—以下省略—

● オペレータークラブ手当等支給規程（抜粋）

第1条 この規程は、会員に関する慶弔又は会員の病気・怪我及びその他に対する手当および研修費等の補助について定めたものである。

第2条 前条に基づく手当及び研修補助については次のとおりとする。

—途中省略—

2 研修費等

- (1) 講座等の受講料については10,000円を限度とし、交通費のみの場合は50%を補助する。
- (2) 観劇等の視察研修は、1人年1回とし、50%の補助とする。ただし、上限は1人3,000円とする。

—以下省略—

● オペレータークラブ料金規程

（規程の目的）

第1条 この規程は、オペレーター活動に対して主催者より費用弁償として負担願う金額を定めたものである。

第2条 前条に基づく費用弁償（舞台増員費）は次のとおりとする。

《オペレーター増員費》

午前	9時～12時	1,500円
午後	13時～17時	1,500円
夜間	18時～22時	1,500円
全日	9時～22時	4,500円

《オペレーター増員費》

イスはずし並びにもどし	各1,000円
オケピット設営並びに復帰	各1,500円

—以下省略—

(3) ボランティアの運営

- ・月1回ボランティア部会を開き、主催者から要請のある人数について催し物ごとに手伝う人を調整している。
- ・ボランティアの業務に従事したときは、「交通費+食事代」ということで一コマ(9:00~12:00, 13:00~17:00, 18:00~22:00)1,500円、全日(9:00~22:00)4,500円が費用弁償として支給される。
- ・実際には半年間プールしておき、弁当代を除いた金額をメンバーに支給するしくみになっている。
- ・有償ボランティアという言葉もあり、当初からこの費用弁償を行う方式を採用している。当初は一回3,000円だったものが、活動時間がバラバラになることもあって一コマ1,000円になり、他のホールで同様のしくみを導入しているところとの相場との関係もあって、5年目から現在の水準になっている。

● たんば田園交響ホールスケジュール表 (1996年9月末~11月)

9月17日現在

月/日	行事名	仕込	リハ	本番	舞台	照明	音響	その他
9/30	ひょうごゆうあい音楽祭	18:00	:	:	2人	2人	3人	人
10/1	"	:	10:30	13:00	2人	2人	3人	人
/2	ア・ラオペラ樽姫	9:00	15:00	19:00	2人	2人	1人	人
/6	篠山町合併20周年式典	18:00	:	:	2人	2人	2人	人
/7	"	:	:	9:30	2人	2人	2人	人
/15	木下オータムコンサート	9:00	:	10:00	人	人	1人	人
/18	篠山町戦没者追悼式	13:00	:	:	人	1人	人	人
/19	"	:	:	10:30	人	1人	人	人
/20	篠山混声合唱団リサイタル	13:00	19:00	:	2人	2人	人	人
/21	"	:	:	18:00	2人	2人	人	人
/22	篠山中吹奏楽演奏会	9:00	:	13:00	2人	2人	人	人
/25	県中学校長研修会	9:00	:	:	2人	2人	2人	人
/26	"	:	:	9:00	2人	2人	2人	人
/28	ダンシングパフォーマンス	9:00	13:00	:	3人	4人	1人	人
/29	"	:	9:00	14:00	3人	4人	1人	人
11/2	幼児のうたまつり	:	:	9:00	人	人	人	人
/3	丹波の森国際音楽祭	:	:	:	人	人	人	人
/4	"	:	:	:	人	人	人	人
/5	"	:	:	14:00	人	人	人	人
/8	郡養・小音楽会	:	:	9:30	人	人	人	人
/9	郡中学校音楽弁論大会	18:00	:	:	人	人	人	人
/10	"	:	:	9:00	人	人	人	人
/11	中村美律子コンサート	9:00	:	14:30	人	人	人	観入者10人
/12	篠山ライオンズ30周年	9:00	10:30	:	2人	2人	2人	人
/15	篠山町消防団同和研修会	18:00	:	19:00	人	人	人	人
/16	丹有高校音楽会	9:00	:	10:00	人	人	人	人
/17	丹有中学校音楽会	9:00	:	10:00	人	人	人	人
/18	メロマン室内管弦楽団	13:00	15:00	19:00	2人	人	人	人
/19	サリヤマピアノ発表会	:	:	10:00	人	人	人	人
/22	町合同芸能発表会	13:00	16:00	:	4人	4人	4人	人
/23	"	:	:	10:00	4人	4人	4人	人
/25	産業高校吹奏楽演奏会	9:00	10:00	13:00	人	2人	人	人
/26	丹波合唱祭	9:00	:	10:30	人	人	人	人
/		:	:	:	人	人	人	人
/		:	:	:	人	人	人	人

※各部の出役人数は予測ですので変更の場合があります。

■ たんば田園交響ホール

- ・ステージオペレータークラブには会則があり、会費は月500円、年6,000円で、新年会などの親睦会費用に使われている。専門技術を磨くための講座の受講料や技能認定試験などの費用についても、会から補助が出るしくみ。
- ・町サイドの管理係の人間が1名ボランティア・クラブの担当者（世話役）となっているが、連絡調整には舞台、照明、音響の担当職員があたる。

3. 現在の課題と今後の方向性

- ・ボランティアということであまりきつく言うことはできないが、しかし時にはきつく言う必要もあり、その辺の兼ね合いが難しい。
- ・ボランティアは半ば身内のようになっており、彼らにとってホールは居心地のいい場所になっていると思う。

① ステージ・オペレータークラブ

- ・「ステージ・オペレータークラブ」については、このままで継続できると思う。20代、30代にしかできない活動だと先は不安だが、今60歳の人も活動している状況を考えると、先はある。
- ・これまでにステージオペレーターの養成講座を受講した人は、延べ150人になっている。その人たちは、ある意味で目の肥えた人たちで、そういう人たちが住民とホールの橋渡しをするようになると、観客のレベルも向上すると思う。
- ・アマチュアの発表会の際、公演の内容等に関してボランティアに相談があることもある。毎年公演をやっているようなところは、年々裏方に対する注文が多くなる。
- ・プロに委託していたのでは、こういう住民とホールをつなぐコアになれるような人は育ってこなかった。

② レディース21

- ・「レディース21」については、企画をするのに企画のことだけを知っているだけでは不十分。舞台の裏のことも知る必要がある。1990年に発足しているので、10年後の2000年には独立した企画集団として、場合によっては住民による“実行委員会”方式の企画・制作を実現してくれれば良いと思う。この形式の活動を定着させたい。

③ 鑑賞型から自主制作へ

- ・篠山町民のひとりひとりが必ず一回はボランティア・スタッフとしてホールに関わったことがあるくらいになっても良いと思う。劇場・ホールに対する観客のこれからの関わりは、舞台の“創作”に関わる形になり、“鑑賞型”の時代は終わる。舞台裏の大切さを知っているからこそプロにも感動するし、アマチュアの成長・努力にも感動できる。観客としての関わりだけでは育たない。
- ・行政が“自主公演”と称して買い取り公演を提供するだけでは、観客は来ない。住民の企画の方が客は入る。今年もホールの自主企画のうち4つは実行委員会方式。篠山町が委員会に加わっている。

■ たんば田園交響ホール

- “参加型” から “参画型” へ。この意味では岸和田方式を目標にしている。
- 「自主制作」も行いたい。住民のなかからプロデューサーを育て、モノもヒトも地域にあるものをプロデュースしたい。これまでの実績では「たんばオペラフェスティバル」で市民参加のオペラを制作してきたが、次はミュージカルをやってみたいと思っている。

④ ボランティアが核になった地域づくり

- ボランティアは行政の補完的な機能を担うのではなく、ボランティアという活動をとおして市民に“生きがい”を与えることだと思う。安上がり行政ではなく、地域を変えていくといった長期的な展望が必要。
- 将来的には、ホールのボランティアが地域コミュニティのコアになっていけばいいと思う。ボランティア・メンバーがきっかけになって、篠山町では、舞台に立ったことのある人、ホールに来たことのある人の割合は非常に高い。

—以上—

😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

Aさん（ステージオペレータークラブ副会長、音響担当、第1期オペレーター養成講座修了）
Bさん（ステージオペレータークラブ、舞台部長、第2期オペレーター養成講座修了）
Cさん（ステージオペレータークラブ、照明部長、第3期オペレーター養成講座修了）
Dさん（ステージオペレータークラブ照明担当、第1期オペレーター養成講座修了）
Eさん（レディース21会長）
Fさん（ステージオペレータークラブ音響担当、レディース21）
Gさん（レディースi(受付・案内))
Hさん（レディースi(受付・案内))

1. 参加の動機・きっかけ

Aさん | 音楽が昔から好きだった。養成講座の開催日と会社の休日が重なっていたので参加できた。当初は安易に考えていたが、深く関われば関わるほど難しくなっている。具体的には、ステレオの大きいようなものがあるだけだと思っていたが、実際には高性能のマイクやラインがあり、操作には専門性を要する。ただ一方では、すぐに操作をマスターできる簡単なものであったら長続きしていないと思う。難しくても、それをマスターしたいがために活動を続けてきた。

Bさん | 動機は二つある。ひとつは、日曜大工が好きで、舞台の様々なものを自分で作れると思ったこと、もう一つは、西紀町役場に勤務しているため、篠山町との交流がはかれると思ったこと。活動歴7年目。

Cさん | ボランティアは4年目、自分で50名程度のダンス・グループのチーフインストラクターをやっており、1年に1回大ホールで発表会を開催している。

- たんば田園交響ホールができる前、市民会館（300席）でダンスの発表会をした。ここの大ホールで2回目の発表会を行ったとき、照明でもう少し青と赤を強く出して欲しいと言ってもわかってもらえなかったのが、ボランティアに参加するきっかけ。
- 最初は、ボランティアで裏方の勉強をして、自分たちの発表会だけうまくいくようになればいいと思っていたが、やりはじめたらボランティアが面白くなってやめられなくなった。

Dさん | 自分で吹奏楽をやっていたため、ボランティアを経験すると自分の出る演奏会でいろいろなことができると思った。

- 以前は豆腐屋をやっていて午後3時には毎日ホールに来ていた。第一期生なので、ホールに出入りするようになって9年目になる。
- プロの歌手に会えるかもしれないというのも参加した動機だったが、実際にやってみて簡単には会えないことがわかった。

Eさん | 平成元年にレディース21が発足した当時から参加している。参加のきっかけは主人。何かコンサートがあると主人がポケットマネーで2人分のチケットを購入していたので、「ホールで活動したら一人分助かるからやってみろ」というのが最初。

* 「レディース21」は、女性の目で見えた企画をやる、という目的で発足。100企画して10が実現すれば良い方。メンバーは20代から60代までの21人。職種も

いろいろ、ホール運営や企画についての知識もまちまち。

Fさん | 小さいころ東京にいて演劇をやっていた。参加していた劇団が解散し、大阪に転居することになった。それ以降、コンサートに行ったりバンドに参加したりする中で、プロの音響について勉強したいと常々思っていた。縁があって3年前に篠山に来た時に、ステージオペレーター・クラブの存在を知り、第5期の講座を受講した。

- レディース21はこの4月から参加。Eさんに誘われた。発足当初からの人が1/3程度。皆それぞれ知識が豊富で、向上心が高い。

* レディース21は基本的には2年任期だが、更新可能

Gさん | 会社の先輩に勧誘された。当初は実際の業務として何をやるか良くわからないまま、“有名人に会える”“タダで公演が観られる”という動機で参加することにした。

* 「レディースi」の制度としてはオープン当初からある。毎年募集している。

* オペレータークラブ、レディースi、レディース21ともスタッフは全員、どの公演も無料で鑑賞できる。感性の向上のために、観てもらおうとしている。レディース21の人はよく観に来る。

Hさん | 知り合いの人に誘われた。タダで公演を観られる、有名人に会えるという誘い文句に乗った。活動歴2年目。

2. 満足度

Bさん | 日曜大工と違い、自分で作ったものが外にでる、みんなで作り上げる、という満足感がある。

Cさん | 実際、自分たちの発表会をやるときも、照明や音響に対して細かな指示ができるようになり、ボランティアをやる前に比べて、照明や音楽とダンスがずっとバランスのとれた公演ができるようになった。

Dさん | ここで初めて知り合った人もいる。50代や60代の人もあるが、ボランティアには年齢差によるタテ関係がまったくないのも魅力。定年後の人の中には、ここ以外でもボランティアをやっている人もいる。

- ボランティア共済保険に加入しているが、安全面に関しては、日頃から徹底するようにしている。出役の間隔が空くと、機械操作のカンが鈍ることがある。

Eさん | 自分たちが何をしたらよいか、何ができるかという方向性が見えて来るまでが大変だった。ファッションショーは5年間チャレンジした。思考錯誤の末、関西以西でキャパシティのあるホールすべてに電話し、6カ所まで共催者を集めたが、昨年の地震でキャンセルせざるを得なくなった。非常に残念だったが、“やればできる”と思えるようになったし、ネットワークの重要さも学ぶことができた。また、自分が個人になった時には全く不可能なことが、この組織に属していることで可能になることは素晴らしいと思う。

- 感性を研ぎすますことの重要性を知った。感性は自分でいつでも研ぐことができる。

Fさん | 単純に音響のことだけでなく、電気関係のことなど幅広い知識が必要であることを知った。

■ たんば田園交響ホール

- また、特にレディース21では、個性の強い人が集まっているが、人間関係がギクシャクすることがあまり無く、お互いに助け合うことができている。
- Gさん | 満足している。年1回、受付や案内に関する「講習」を受講でき、他では学べない知識を得ることができた。
- Hさん | クラシックなどそれまで興味のなかったものが段々に好きになり、それが自分のものになりつつあることが一番うれしい。また、礼儀作法も学ぶことができた。

3. 活動の頻度

- Aさん | ホールが丁度会社の近くにあり、出役に関係なく、一日に3回くらい顔を出す。
- Bさん | 現状では、月1回程度しか参加できていない。従って出役はあまりしていないが、舞台部の役員（部長）を務めている。仕事とボランティアの両立は難しい。スケジュールの調整が難しいので、多様な専門家をそろえておくと思う。
- Eさん | 毎月21日をレディース21の例会日にしている。企画が近くなるともっと頻繁に集まる。
- Hさん | レディースiの出役は2ヶ月に1回程度。

4. 施設側への要望・課題等

- Bさん | ボランティアは時間的な制約もあり、結局はプロになりきれない。ボランティアの限界がある。また、参加の頻度や技術の習得速度も個人差があり、技術レベルが均一ではないし、失敗もある（これを許容してくれているホール側に感謝している）。逆にレベルが全員高くなりすぎても新人は入りにくい。
- ホール側スタッフに随分依存していると思う。“お手伝い”という意識をいかに払拭できるかが問題だろう。ボランティアだから失敗しても許されるということはない。誰が舞台を作ろうと観客は同じ金額を払って公演を鑑賞するので、手抜きはできない。
 - また、ホール（施設）に属する舞台スタッフの場合、公演ごとに毎回新しい舞台に対峙しなくてはならない点が難しい。劇団に所属する舞台スタッフなら同じ公演を繰り返し行うので進行順はわかっている。
- Cさん | 現在はステージ・オペレータの部屋がないため、待ち時間はロビーで待機している。皆で集まれる場所があると良い。
- * 改修してボランティア専用の部屋を設ける予定。
 - プロの公演で照明等の持ち込み機器があるときは扱いがわかりにくい。うまく対応できなくて、出演者側の担当者からしかられ、悔しい思いをしたこともある。
 - ブランクが空くとカンが鈍ることがある。年間10回ぐらいの経験では、技術水準の向上にも限りがある。
 - 午前中リハーサル、昼本番というような場合には、スケジュールの調整が

■ たんば田園交響ホール

大変。春の田植え時、秋の稲刈り時、また11月の黒豆の収穫時には、人手を確保するのがとくにたいへん。リハーサルと本番で人が違ってしまいうこともある。

- ボランティアだからといって甘えたくないし、しっかりとしたプロ意識を持ってやっていけたらいいと思う。

Eさん | 企画もさておき、メンバー自身の繋がりをもっと強くしたい。21人は個人的にはほとんど知らない人同士の集まり。もう少し深いところで知り合って、レディース以外のところでの繋がりも発見したい。

Gさん | 年間12～13本程度の公演について、レディースiのスタッフ全員で仕事を分担するため、年間の出役数は5回から少ない人は2回程度になってしまう。あまり間隔があくと仕事の勘を忘れてしまう。また、皆女性なので、結婚すると止めてしまうことも課題のひとつか。

Hさん | レディースiとして案内用の制服があれば良いと思う。

—以上—